



ふじのふんか 竹とり塚

いく月かたって、月がおぼろにかすむころになると、かぐや姫は物思いにしずむようになりました。おじいさんとおばあさんが心配して、そのわけを聞くと、姫は泣く泣くそのわけを話しました。

「わたしは月の世界の人間です。今度の十五夜の晩に月からわたしを迎えにくるのです。おじいさんおばあさんに別れなければなりません。それが悲しくて…」と泣きふしてしまいました。

おじいさんは、たとえ月から迎えにきても、姫をわたすまいと数千人の武士に

たのんで家のまわりを守ってもらいました。十五夜の晩がきました。おじいさんとおばあさんは戸じまりをし



【かぐや姫の竹とり塚】

らだはスルスルと空飛ぶ車の中へ入ってしまいました。



おじいさんとおばあさんはその場に泣きくずれ、武士たちは力がぬけぼうぜんとしてしまいました。

かぐや姫は「長い間おせわになりました。すえ長くお達者で…」と、不死の薬をかたみとして残し、手をふりながら月夜の空にのぼってしまいました。

おじいさんとおばあさんは、かたみの不死の薬を、日本一高い駿河の山に登って燃してしまいました。それ以来、この山のことを不二(ふじ)の山というようになり、煙のたえることがなかったといわれています。

5月12日～春の全国交通安全運動～5月21日

手をかそう ちっちゃんな子どもと お年寄

とびだすな あのみちそのみち こうさてん



この「タコ」

あがるかな

5月3日の親子レクリエーション大会に自分たちでつくったタコを上げようと、田子浦子供会は4月27日、小学校に300人の親子が集まって、タコづくりをしました。みんなタコづくりは初めてなので、東芝レクリエーション部のお兄さんやお姉さんに指導をしてもらい、六角タコ、コブラタコ、ニューフアイタータコなどをつくりました。できあがったタコを見て、みんなはやく上げたいとおおよろこびでした。

